



うさ本ファミリー

楽しく子育て!

～子育て支援コーナー通信～

第86号

発行日

2014年7月19日

(毎月19日刊行)

司書のオススメ本

～食育って何?～

<企画展示コーナーから選んでみました>

娘は好き嫌いが激しく、家では白飯にふりかけ又は韓国のりしか食べない、ということがしょっちゅうです。何かの本で「自分で料理すると、食べられないものが食べられた」とあったのを読み、実行してみました。

子どもといっしょに野菜を洗ったり、材料を切ったり（大人の手を添える必要はありますが）して、肉じゃがを作りました。

さあ、いよいよ食べる時間です。「楽しそうに作っていたから、きっと食べてくれるはず」そう思いながら見守っていましたが、「おいしくない!」と言い放ち、結局、箸さえつけずに終わってしまいました（涙）。

反対に、「どうせ食べないだろう」と思い、子どもに用意していなかったおかずを欲しがり、あっさり平らげることもあるので、不思議です。

無理強いせず、気長に待つのがポイントでしょうか? (T)

新しい本が
入りました。

()内の数字は
棚の番号です

『育てにくい』と
感じたら』

近藤直子/著

ひとなる書房/刊

2014.5

(支援1-5)

『こんなにあぶない子
宮頸がんワクチン』

安田美絵/著

合同出版/刊

2013.7

(支援2-3)

『もう怒らない子育て』

若松亜紀/著

PHPエディター

ズ・グループ/刊

2014.7

(支援3-1)

『PTAをけっこう
ラクにたのしくする
本』

大塚玲子/著

太郎次郎社エディ

タス/刊

2014.6

(支援4-3)

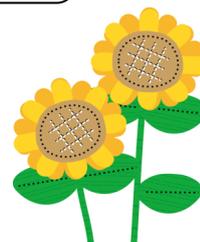
<おススメbook>



『なぜ、好きなものだけ食べてはいけないの?』
服部幸應/著 (シーアンドアール研究所)

『ひなちゃんの食育 家族がなかよしになる』
南ひろこ/絵 (産経新聞出版)

『子育てハッピーアドバイス
笑顔いっぱい食育の巻』
松成容子, 明橋大二/著, 太田知子/イラスト
(1万年堂出版)



企画展示

「楽しく食べよう!元気のミナモト～親子で食育～」展

子育て支援コーナーにて、平成26年9月7日(日)まで開催中!

わが家の子育て with books 第8回

「過保護」と「過干渉」のあいだ

この『かわいがり子育て』には、友人から出産祝いで贈られて、出会いました。「子育てで悩んで育児書を何冊も読んだけど、最初に読むんだったら、これが分かりやすいと思う。」と言って渡されたとき、実は、「子育ての大変さ、難しさ」というものが、あまりピンときていませんでした。出産直後は、重たいお腹から解放され、「やっと楽になった」ぐらいにしか思っていなかったので、「育児書なんて必要な？」と思いつつ、育児の合間に読みました。

この本で使用されている言葉には著者独特のものがあり、読むのに、存外に時間がかかりました。たとえば、「過保護」と「過干渉」の違い。普段どちらの言葉も悪い意味で使用することが多いですが、ここでは、「過保護」とは、「子どもが望むことを望んでいる以上に上げてあげること」で、良い意味をもちますが、「過干渉」は、「子どもが望んでもいないことをやりすぎること」で、悪い意味をもちます。「過保護」と「過干渉」の大きな違いは、「子どもが望んでいるかどうか」です。

過保護にして、たくさん甘やかしていると、子どもは深い安心感とともに成長しますが、親には良いと分かっていることでも、押しつけ続けると、子どもの心を傷つけるのだそうです。

この本を読んで数か月後、「育児書なんて必要？」とのん気に思っていたのが嘘のように、子どもの夜泣きなどに悩まされ、「育児書を読みたい時には、時間なし」という状態に陥ったので、プレゼントしてくれた友人に感謝したものです。

「〇〇したら子どもが言うことをきく」的な、即効性・実用性の高い本ではありませんが、子育ての核となる考え方は、この本から教わったと思います。(T)



『かわいがり子育て』
佐々木正美／著
(大和書房)



小学生対象「科学体験フェスタ」を開催します。

8月9日(土) 13:00~15:00 2階 視聴覚ホールにおいて小学生対象の科学体験フェスタを開催します。スライムや磁石のふしぎ、ハノイの塔など、不思議な体験がいっぱいです。どうぞお越しください。



室温を28℃に設定しています。

県立図書館では、省エネルギー対策のため、冷房中の室温を28℃に設定しています。来館者が多いときには、閲覧室が暑く感じられることがあるかもしれません。小さいお子さま連れの方は、体温調節のできる服装や水分補給をお心がけください。※飲食はエントランスホールでお願いします。

編集後記 「鯛の鯛」ってご存知ですか？硬骨魚類の骨の一部で、肩甲骨と烏口骨が繋がった状態のもので、平たくいうと鯛のエラの下あたりにある鯛の形をした骨で、一匹に左右1つずつあります。鯛だけでなく、ヒラメなどの魚にもあるようです。尾頭つきが苦手なうちの子どもも、「鯛の鯛」探しは大好きです。探しながら魚の身を隅々まで戴きましょう。あなたも「鯛の鯛」を探してみませんか。(Y)